

宇治茶を世界文化遺産に

宇治茶を通じた和の文化の継承と
「お茶する生活」の実現



つくる

- 豊富な茶種の生産
- 匠の技による生産、仕上加工

癒される

- 山なり茶園の風景
「かおり風景100選」



味わう

- 宇治茶、茶そば
- 茶団子、日本茶カフェ など

楽しむ



- お茶祭りなどのイベント
- 茶摘み体験、製茶体験

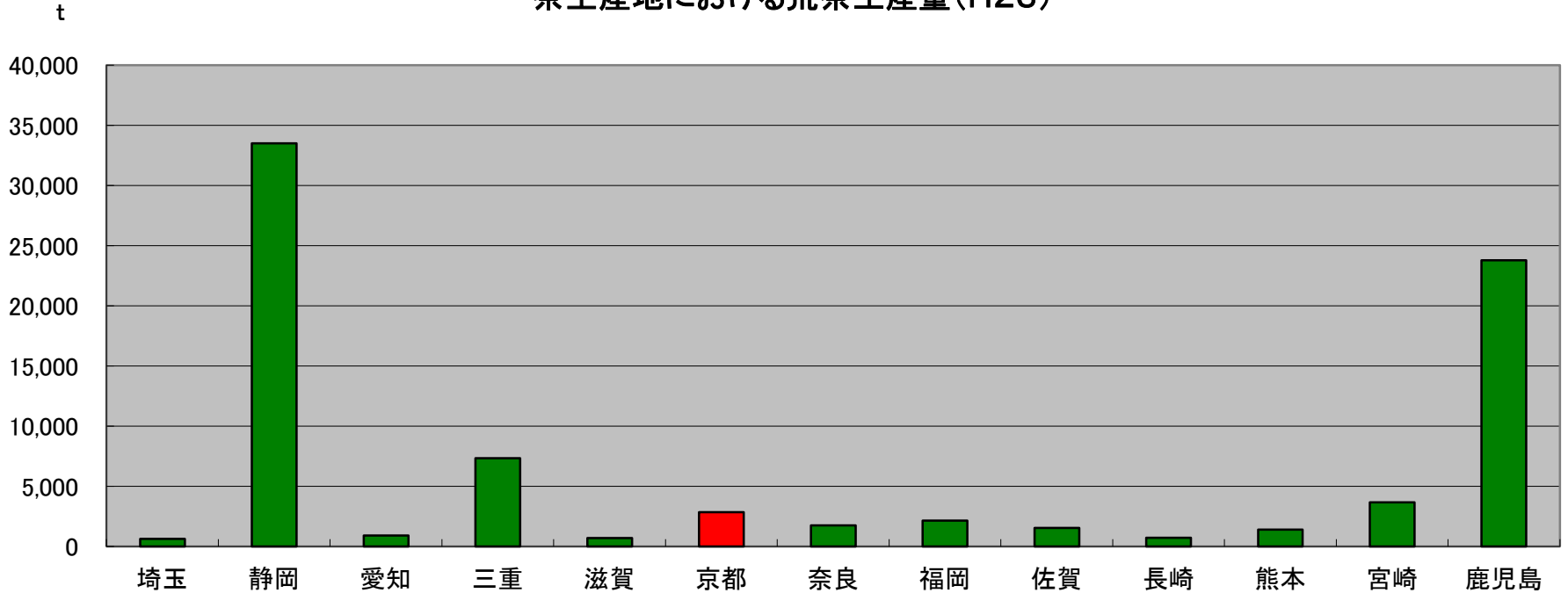
学ぶ



- 800年の歴史遺産
- 資料館、記念館 など

京都府茶業の概要

茶主産地における荒茶生産量(H23)



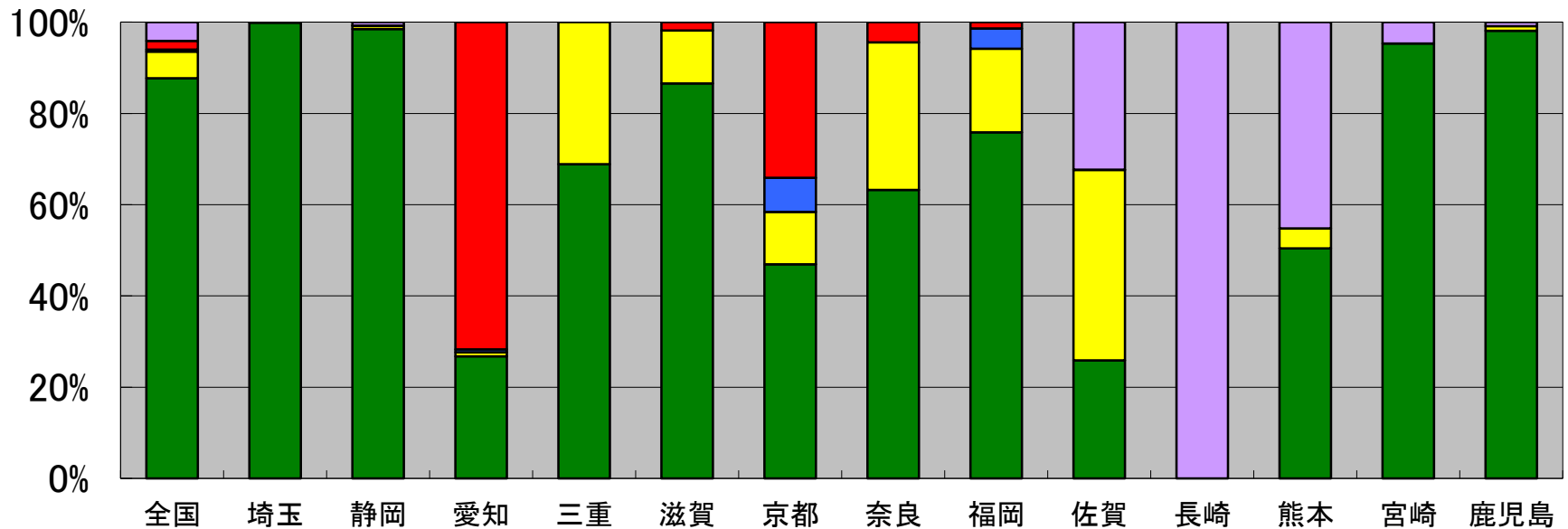
茶主産県における荒茶生産量(t)(平成23年)

	全国	埼玉	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	奈良	福岡	佐賀	長崎	熊本	宮崎	鹿児島
生産量	82,100	631	33,500	927	7,350	718	2,870	1,750	2,170	1,560	735	1,420	3,670	23,800
順位		14	1	10	3	12	5	7	6	8	11	9	4	2
全国割合		0.8%	40.8%	1.1%	9.0%	0.9%	3.5%	2.1%	2.6%	1.9%	0.9%	1.7%	4.5%	29.0%

資料：農林水産省調査

特徴1：京都はお茶の種類をバランスよく生産

茶主産地における茶種割合(H23)：番茶等除く



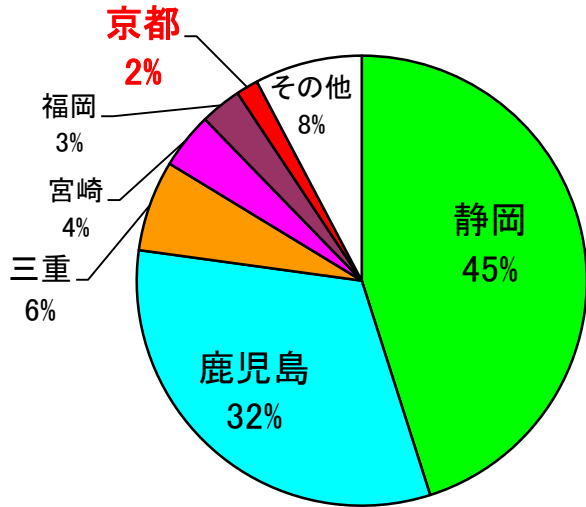
茶主産県における茶種別荒茶生産量(t)(平成23年)：番茶、その他を除く

	全国	埼玉	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	奈良	福岡	佐賀	長崎	熊本	宮崎	鹿児島
煎茶	87.7%	99.9%	98.5%	26.8%	68.9%	86.6%	47.0%	63.2%	75.9%	25.9%	0.0%	50.4%	95.3%	98.1%
かぶせ茶	5.8%	0.0%	0.7%	0.9%	31.1%	11.6%	11.5%	32.3%	18.3%	41.7%	0.0%	4.4%	0.0%	1.0%
玉露	0.4%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	7.5%	0.0%	4.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
てん茶	1.9%	0.1%	0.0%	71.7%	0.0%	1.8%	34.1%	4.4%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
玉緑茶	4.1%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	32.3%	100.0%	45.2%	4.7%	0.9%

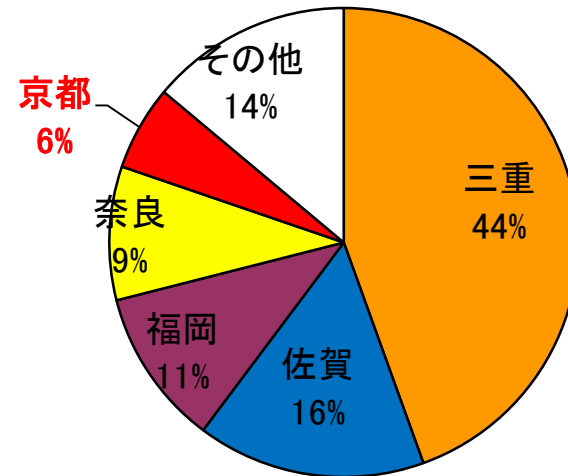
資料：全国茶生産団体連合会調査

特徴2: 京都は、覆下茶園で生産される茶種の生産量が多い

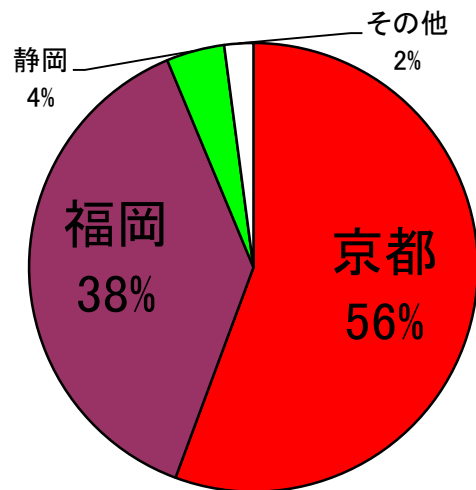
煎茶生産量に占める府県別割合(H23)



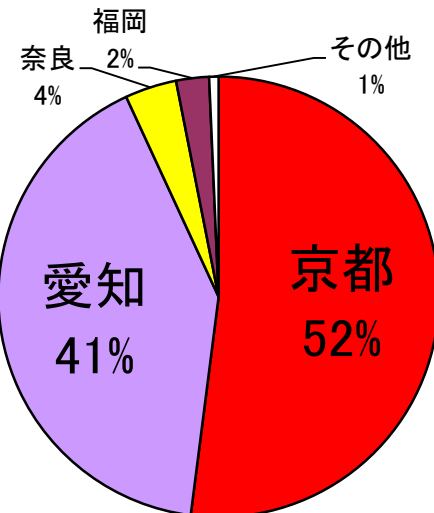
かぶせ茶生産量に占める府県別割合(H23)



玉露生産量に占める府県別割合(H23)

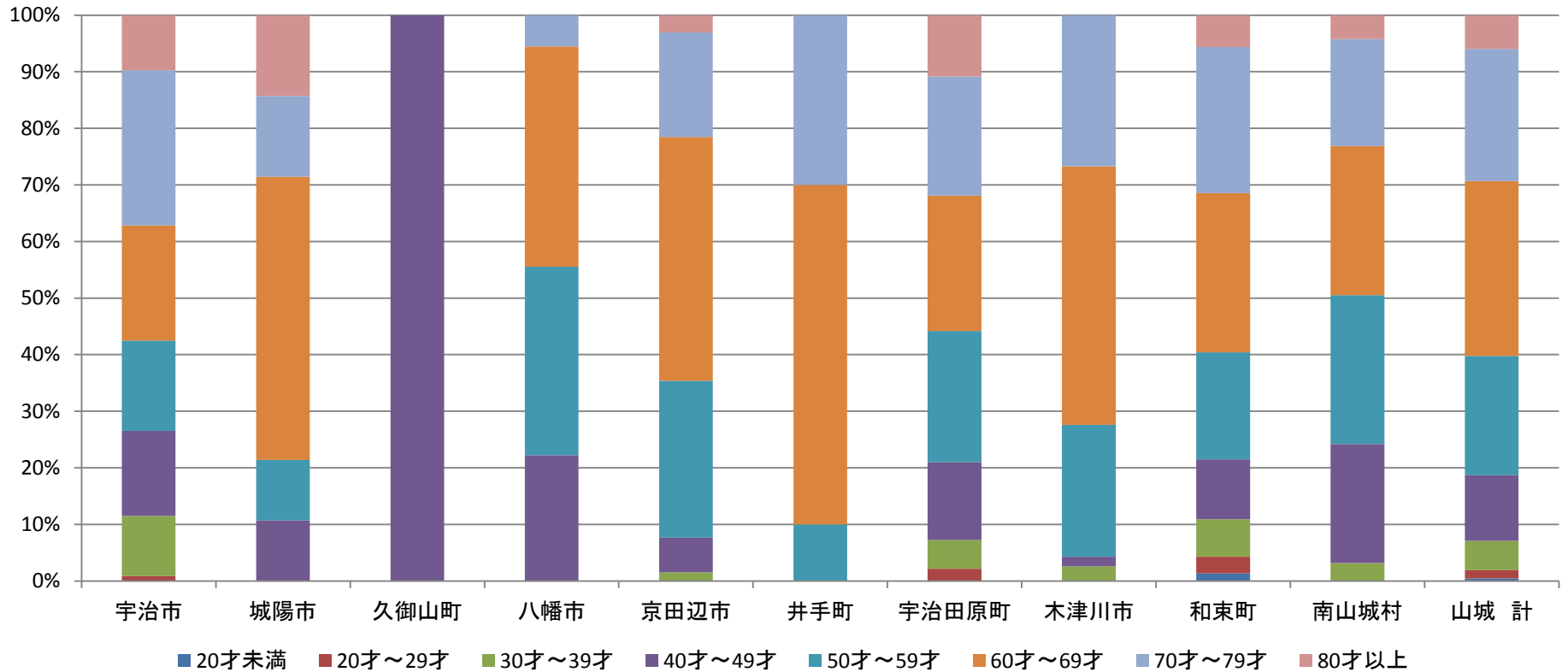


てん茶生産量に占める府県別割合(H23)



市町村名	面積 (ha)	被覆棚茶園(ha)		農家数(戸)		乗用摘採機 (台)	茶工場				
			うち		うち		もみ茶		てん茶		
			よしず、こも		認定農業者		個人	共同	個人	共同	農協営
宇治市	80	66	24	113	21	0	11	2	12	2	0
城陽市	30	30	2	28	17	0	0	0	11	2	0
久御山町	5	5	0	2	2	0	0	0	2	0	0
八幡市	16	16	0.2	18	12	0	0	0	5	2	0
京田辺市	37	33	2	65	9	0	20	2	1	1	1
井手町	14	14	0	10	3	0	0	0	0	1	0
宇治田原町	258	111	1.7	138	38	4	46	5	5	1	0
木津川市	141	31	1	116	10	8	45	3	5	2	0
和束町	591	61	0	302	45	7	95	10	17	3	0
南山城村	311	0	0	95	33	44	57	7	5	1	0

年齢別生産農家戸数(H24)



市町村名	20才未満	20才~29才	30才~39才	40才~49才	50才~59才	60才~69才	70才~79才	80才以上
宇治市	0	1	12	17	18	23	31	11
城陽市	0	0	0	3	3	14	4	4
久御山町	0	0	0	2	0	0	0	0
八幡市	0	0	0	4	6	7	1	0
京田辺市	0	0	1	4	18	28	12	2
井手町	0	0	0	0	1	6	3	0
宇治田原町	0	3	7	19	32	33	29	15
木津川市	0	0	3	2	27	53	31	0
和束町	4	9	20	32	57	85	78	17
南山城村	0	0	3	20	25	25	18	4
山城 計	4	13	46	103	187	274	207	53

お茶文化を次世代に繋ぐ取組

たゆまぬ技術の研鑽



京都府茶品評会(生産者:荒茶)



茶園品評会



宇治茶品評会(茶商:仕上茶)



宇治茶製法手もみ技術競技大会

「宇治茶手もみ製茶技術」京都府指定無形民俗文化財に指定



平成20年3月21日、宇治茶手もみ製茶技術が、現在の製茶技術の基礎技術として資料的な価値も高く、民俗技術としても重要として、京都府無形民俗文化財に指定された。

元文3年(1738年)、宇治田原町の永谷宗円によって発案され、発展した宇治茶手もみ製茶技術は、「宇治製法」とも呼ばれ、京都府宇治茶製法手もみ技術保存会連絡会議の会員である各保存会によって伝承されている。

宇治の文化的景観

- 重要文化的景観に選定
(都市域最初の選定:H21.2)
- 歴史を重ねて発達した現在の宇治の町に、
茶の製造や茶園など伝統的な生業の風景
が息づく、個性的な文化的景観



京都府景観資産登録、京都府選定文化的景観選定(和東町茶園)



白栖・石寺の茶畑



釜塚(南部)の茶畑



撰原(松尾)の茶畑



原山(養治)の茶畑



宇治新茶・八十八夜茶摘みの集い
(八十八夜の日)

緑茶の日

立春から88日目、5月2日又は1日(閏年)



春の大茶会
(立春周辺の日)

茶業記念日(10/1)

豊臣秀吉が北野大茶会を開いた日(1587年)

お茶栽培に功績のあった先人に感謝し、
茶業の発展を祈願する茶祭りが開かれる



◆駒乃蹄影会茶業記念祭
(駒の蹄影記念碑前)



◆宇治市小倉茶祭
(玉露製茶発祥之碑前)



◆宇治製茶記念式典
(製茶記念碑前)

◆宇治田原茶祭
(永谷翁之碑前)



◆山城町茶祖祭
(山城茶業之碑前)

宇治茶の郷創月間

○10月～11月

山城地域を宇治茶を楽しみに来て、味わってもら
う体験エリアにしていくため、茶業関係団体、府民、
行政が一体となって、山城地域をあげて宇治茶の
魅力をPRしていく初めての取組として制定。

平成18年度、19年度：10月

平成20年度～：10月、11月

※平成18年度 宇治茶の郷づくり協議会が制定

宇治茶まつり(10月第1日曜日)



宇治茶の郷創(づくり)月間



京田辺茶まつり



城陽茶まつり



宇治田原ふるさとまつり

宇治茶カフェ

- 良質な宇治茶を提供し、宇治茶の歴史、文化、製造方法、淹れ方等が説明できる喫茶店を「宇治茶カフェ」として認定
- 現在23店舗を認定



認定店の1つ「宇治茶道場 匠の館」



宇治茶カフェ認定式



認定店「盾」

宇治茶と喫茶文化の発祥と継承

明恵上人が宇治に初めて茶を伝える

16世紀後半（戦国時代）：宇治で覆下栽培がはじまる

- ・ 現在のてん茶製法の原型が確立
- ・ 日本特有の抹茶の出現

本ずによる覆下茶園



16世紀後半：織田信長、豊臣秀吉の茶頭として活躍した千利休によって大成。



千利休



織田信長

国宝待庵(大山崎町):

わが国最古の茶室建造物で、千利休の現存する遺構として唯一の茶室



豊臣秀吉

1654年（江戸時代）

隠元禪師が、釜炒りした茶葉に熱湯を注ぐ「淹茶法」を伝える

18世紀中期：売茶翁が、京の街で煎茶を売り歩き、急須でお茶を淹れる煎茶喫茶趣味は、その後、全国に広まった。



黄檗山萬福寺(宇治市)

隠元禪師が開山。
売茶翁は、若い頃に修行。



隠元禪師



売茶翁



釜炒り茶

1738年(江戸時代)

宇治田原町湯屋谷の永谷宗円が、蒸した茶の新芽を焙炉の上で手で揉み乾燥させる宇治製法を生み出す。ここに色、香・味ともに優れた日本特有の「煎茶」が出現。

この煎茶は、江戸で売り出され評判になり、宇治製法が全国の茶産地に広められ、全国に普及し、現在の日本茶製法の主流となる。



永谷宗円生家(宇治田原町)



永谷宗円



茶宗明神社



日本最古の焙炉跡



宇治茶手もみ製法

日本特有の煎茶は、江戸で売り出され評判になり、宇治製法が全国の茶産地に広められ、全国に普及し、現在の日本茶製法の主流となる。

初期に宇治製法が広まった地域の茶園



和東町原山



宇治田原町
大福谷



和東町湯船

1835年(江戸時代後期)

覆下栽培の葉を宇治製法で仕上げる「玉露」が宇治市で
生み出される



玉露製茶記念碑(宇治市)



宇治市小倉の製茶場でてん茶製造の様子を見ていた山本嘉兵衛が、蒸された葉をかき回したところ、飴のような粘液がでて丸く団子になったところから「新製 玉の露」と名付けられた。

宇治製法で作られる煎茶や玉露を飲む茶会が、京都を中心に文人、画家、茶人たちによって、広がり煎茶道が発展し、専用の茶席が創設された。



財団法人頼山陽旧跡保存会

山紫水明処

頼山陽の書斎兼茶室として使われた建物



頼山陽



上田秋成



田能村 竹田

19世紀(明治時代)

幕末の開港を機に、宇治茶はアメリカ市場を中心にした輸出産業の一翼を担って発展し、茶問屋が宇治茶と日本式喫茶法が世界に広がる発信地となる。



茶問屋の町並み(木津川市)

江戸時代末に神戸港が開港され、山城各地からこの地に集められたお茶が木津川、淀川を経て神戸港に運ばれ、世界へ輸出された。

お茶は生糸と並ぶ輸出品で、木津川の「上狛浜」を控えたこの地は茶の集散地として栄え「東神戸今神戸」とも呼ばれた。



山城茶業之碑
(木津川市)



茶問屋の町並み(宇治市)



茶問屋の町並み(宇治田原町)

19世紀(明治時代)

幕末の開港を機に、宇治茶はアメリカ市場を中心にした輸出産業の一翼を担って発展し、山城地域では、茶園の拡大により一年を通じて良質茶葉の生産を目指した。

生業として継続している茶畑景観



南山城村



和東町



木津川市

生業として継続しているいろいろな作業形態の茶園



機械刈による露天茶園



乗用摘採機による露天茶園



手摘みによる覆下茶園



機械刈による覆下茶園

宇治茶とは何か

室町時代以来のトップブランド

※中世の段階から、ブランドの要素、トップブランドの要素が兼ね備えている。

①オリジナルティをもつ

→他にはない、他の地域にはない新しいお茶を作りだした。

(1) 抹茶、煎茶、玉露 → 喫茶文化の普及

(2) 茶文化（茶道；茶の湯、煎茶道）の発展を担っている

②ストーリーをもつ

→創業伝説がある

③ロイヤリティをもつ

（特定の権利を利用する利用者が、権利を持つ者に支払う対価）

→天皇、将軍に愛された

④室町時代より偽物がでる

新しいお茶の発明は山城から

抹茶

戦国末期 宇治
覆下茶園の発明



煎茶

江戸中期 宇治田原
露地茶園の茶葉の使用



玉露

江戸末期 宇治
禁制を破り新しい茶を

宇治茶の魅力

○歴史的魅力

商品として800年

○技術的魅力

世界一の栽培・製造・仕上技術

○周辺的魅力

- 文化的; 茶道、華道、書道
- 産業的; 陶磁器、呉服、和菓子、料理
- 遺産的; 建物、庭園(茶室)

日本文化・京都文化のコアとしての宇治茶 各時代にサポーターが居た

- ・800年前 貴族僧侶の茶
- ・630年前 武家の茶
- ・430年前 茶人の茶
- ・270年前 文化の茶

日本茶の歴史

約1200年前（平安時代 800年代はじめ）

唐から お茶を煮出し飲む文化（煎茶法 煮茶法）

約800年前（鎌倉時代 1100年代の末期）

宋から お茶をお湯にとかして飲む文化（点茶法）

約400年前（江戸時代 1600年代）

明から お茶をお湯にひたしてエキスを飲む文化（淹茶法）

現代？（食べるお茶？ ペットボトル？ 健康？などなど）

京都府の宇治茶振興

① 16年度～20年度

- ・茶園100ha増反

②平成18年度～

- ・宇治茶の郷づくり構想

③平成23年度～

- ・宇治茶の魅力世界へ発信
- ・宇治茶の世界文化遺産に向けた取組

世界遺産とは

■ユネスコ総会で採択された世界遺産条約に基づき「世界遺産リスト」に記載されている「顕著な普遍的価値」を有する自然や生態系保存地域、記念建造物、遺跡。

■世界遺産リストに登録された遺産は、「人類全体にとって貴重なかけがえない財産」として、遺産保有国を中心に、国際的な協力と援助の下で保護・保全が行われていく。

※936件(2012年3月現在)

世界遺産の定義

■ 顕著な普遍的価値

国家という枠組みを超え、人類全体にとって現在だけでなく将来世代にも共通した重要性をもつような、傑出した文化的な意義や自然的な価値を意味する。

○ 文化遺産(725件)

人類の歴史が生み出した記念物や建造物群、文化的景観など

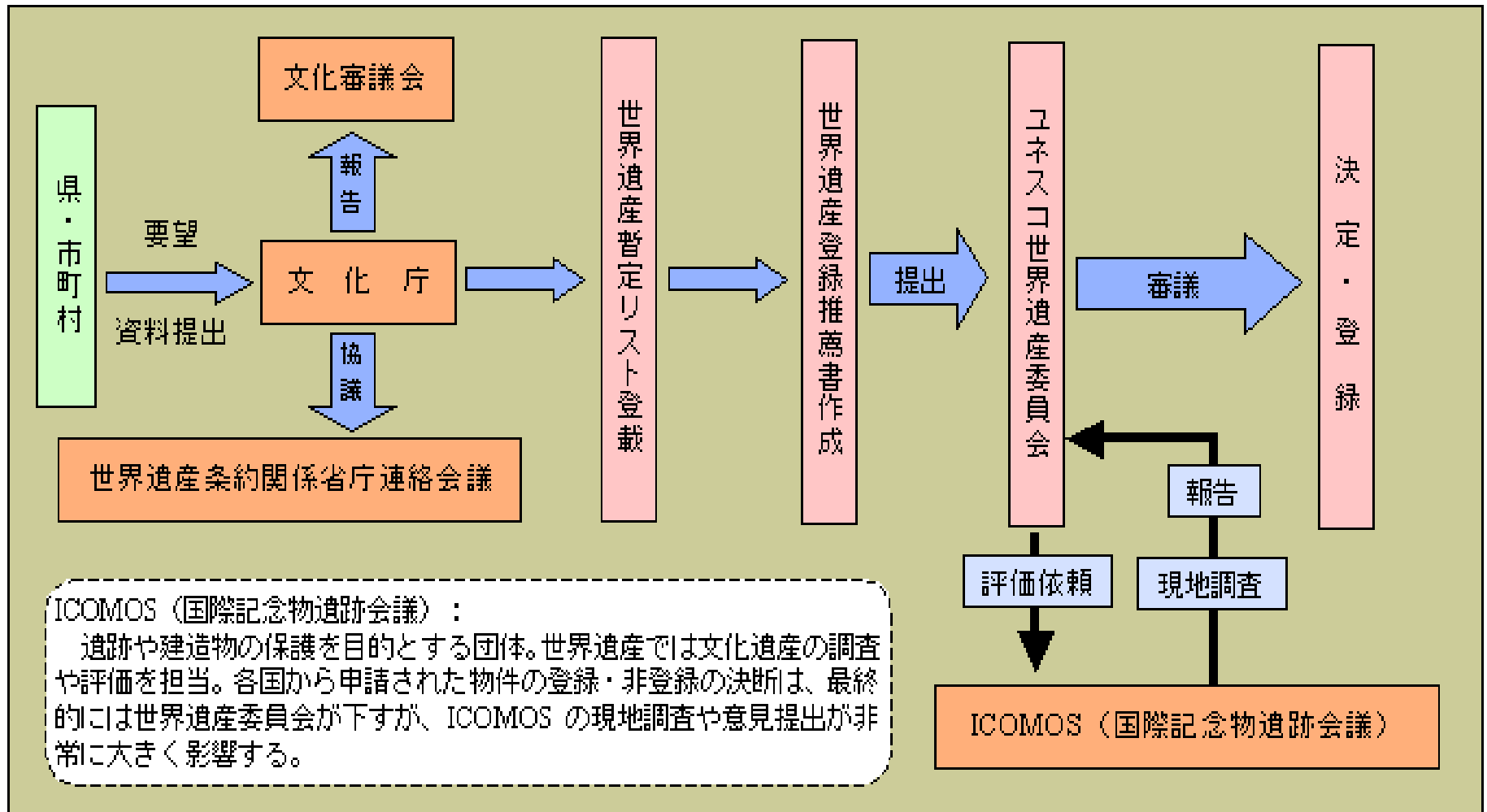
○ 自然遺産(183件)

地球の生成や動植物の進化を示す、地形や景観、生態系など

○ 複合遺産(28件)

文化遺産と自然遺産、両方の価値を兼ね備えているもの

世界遺産登録の手続の流れ



登録基準の概要

●文化遺産

- (i) 人類の創造的資質や人間の才能を示す遺産
- (ii) 文化の価値観の相互交流を示す遺産
- (iii) 文化的伝統や文明の存在に関する証拠を示す遺産
- (iv) 建築様式や建築技術、科学技術の発展段階を示す遺産
- (v) 独自の伝統的集落や、人類と環境の交流を示す遺産
- (vi) 人類の歴史上の出来事や伝統、宗教、芸術などと強く結びつく遺産(ほかの基準とあわせることが望ましい)

●自然遺産

- (vii) 自然美や景観美、独特な自然現象を示す遺産
- (viii) 地球の歴史の主要段階を示す遺産
- (ix) 動植物の進化や発展の過程、独自の生態系を示す遺産
- (x) 絶滅危惧種の生育域でもある、生産多様性を示す遺産

世界遺産に関する概念

●真正性

建造物や景観などが、それぞれの文化的背景の独自性や伝統を継承していることが求められる。

●完全性

世界遺産の顕著な普遍的価値を構成するために必要な要素が全て含まれ、また長期的な保護のための法律などの体制も整えられていることが求められる。

文化的景観

- ・「遺跡」の定義の中の、「自然と人間の共同作品」に相当するもの
- ・人間社会が自然環境による制約の中で、社会的、経済的、文化的に影響を受けながら進化してきたことを示す遺産

● 文化的景観の3つのカテゴリー

意匠された景観

- 庭園や公園、宗教的空間など、人間によって意図的に設計され創造された景観

有機的に進化する景観

- 社会や経済、政治、宗教などの要求によって生まれ、自然環境に対応して形成された景観。農林水産業などの産業とも関連
- すでに発展過程が終了している「残存する景観」と、「現在も伝統的な社会の中で進化する「継続する景観」に分けられる

関連する景観

- 自然の要素がその地の民族に大きな影響を与え、宗教的、芸術的、文学的な要素と強く関連する景観

宇治茶の世界文化遺産を目指す意義

- 宇治茶は、何世紀にもわたって日本茶のトップブランドとして評価されおり、京都・山城地域は、生産から加工、流通、喫茶に至るまで独特の文化を生み、支え、育んできた「日本の喫茶文化の発祥と継承の地」である。
- 日本のみならず世界の喫茶文化の新たな展開にも貢献しており、また、茶道の確立は、茶道具のための陶磁器、漆器から呉服や和菓子、懐石料理といった産業、文化をも大きく開花させる等まさに日本文化のコアであり日本の宝である。
- 登録に向けた取組を進めることにより、
 - ・宇治茶の魅力や価値を大切にして、原点である地域ぐるみでの景観保全や技術、文化を維持していく
 - ・宇治茶の価値を日本や世界の人々に伝え、人類共通の貴重な宝として将来にわたって継承していく。

宇治茶の世界文化遺産登録に向けた取組

- H23 5月 専門家による助言会
- 7月 第1回登録可能性検討委員会
- H24 3月 第2回登録可能性検討委員会
- 5月 可能性検討委員長から知事へ提案
- 8月 第1回登録検討委員会
- H25 3月 第2回登録検討委員会
- 8月 第3回登録検討委員会(予定)
 - ・提案書中間(案)を検討
- 12月 第4回登録検討委員会(予定)
 - ・提案書(案)を検討

宇治茶の価値のポイント

宇治茶の顕著な普遍的価値

柱1

てん茶の資産
(抹茶)

柱2

揉茶の資産
(煎茶、玉露)

□生産

- ※日本特有の抹茶の出現
- ・覆下茶園(てん茶)の景観

□流通

- ※茶の湯を支えた商品力
- ・茶師の屋敷と茶問屋町並み景観

□喫茶

- ※喫茶法の普及、茶の湯の確立
- ・茶室、寺社

日本茶の代表的な
製法の開発

茶師・茶商
の活躍

喫茶文化の
発祥と継承

□生産

- ※日本特有の煎茶、玉露の出現と普及
- ・集落茶園、山なり茶園の景観

□流通

- ※輸出発展と煎茶道、国内流通を支えたブレンド力
- ・茶商の屋敷と茶問屋町並み景観

□消費

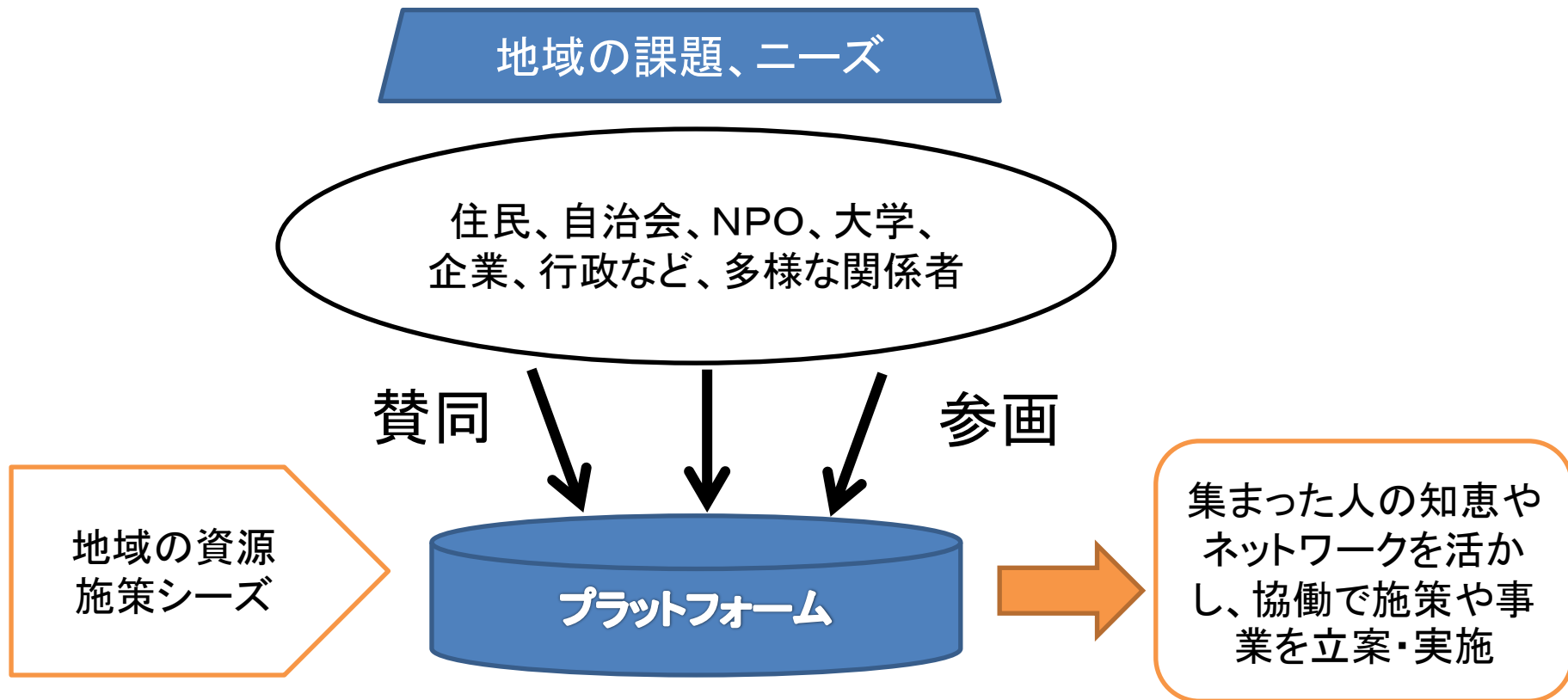
- ※喫茶法の普及、煎茶道の確立
- ・茶室、寺社

宇治茶の世界文化遺産登録に向けて

- 宇治茶に関心を持ち、
- 宇治茶について学び、その大切さを理解し、
- 宇治茶の素晴らしさを身近な人と世界の人々に伝え、
- 宇治茶を守るための活動に参加し、
- 宇治茶を支える「ひと、わざ、もの」を守り育て、
- 宇治茶を活かすことで維持し、未来につないでいく。

地域力再生プラットフォームとは？

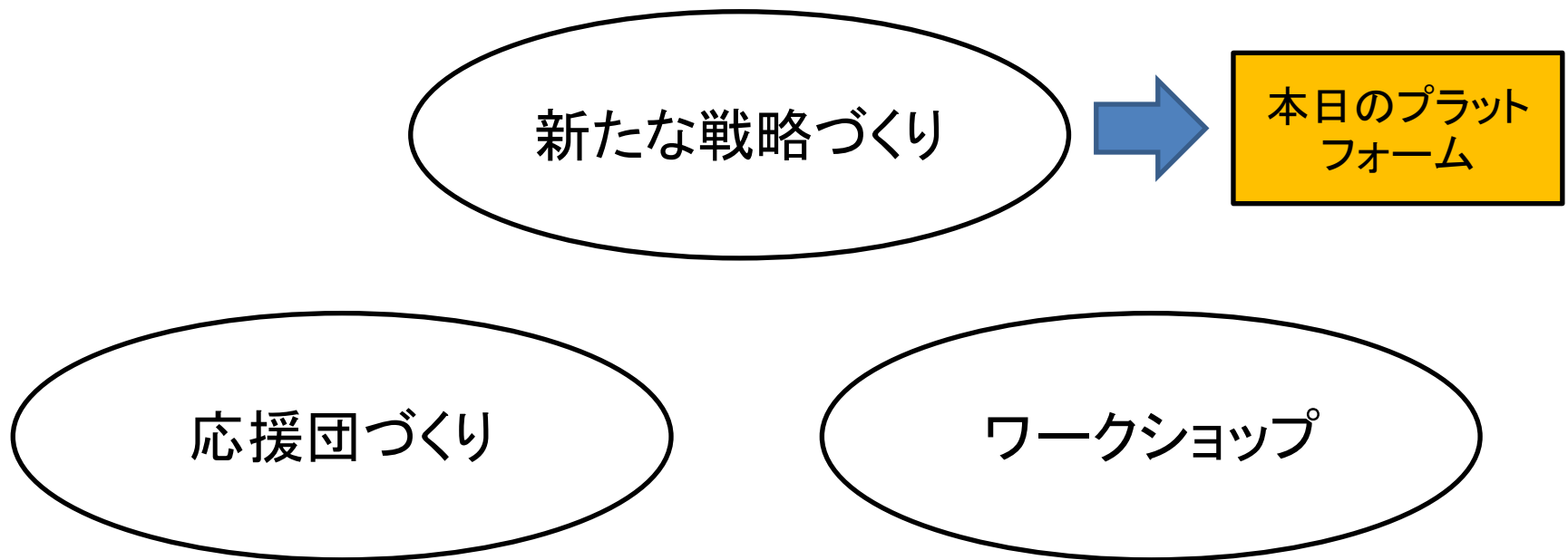
地域力再生活動団体（自治会やNPO等）、大学、京都府・市町村などが、共通する課題に応じた集まり、それぞれが得意とするネットワークや知恵を活かし、課題解決や新しい価値創造に向けた計画や施策をつくり、実行に移していく場です。



宇治茶の世界文化遺産登録推進プラットフォーム

●目的

世界文化遺産登録に向けた取組を進めることにより、宇治茶の価値を日本や世界の人々に伝え、人類共通の貴重な宝として将来にわたって継承していくために、集まっていたいただいた人の知恵やネットワークを活かして、協働で施策や事業を立案・実施していく。

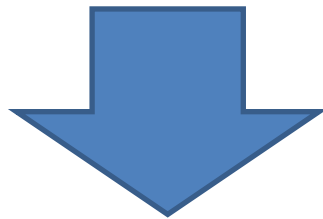


プラットフォームのスケジュール

	~5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
戦略づくり		第1回 ・現状・課題共有 ・戦略の検討	第2回 戦略1	第3回 戦略2	第4回 戦略3		第5回 まとめ				
ワークショップ	~6/21 → 資源調査	→ 結果とりまとめ	ワークショップ 地域の資産発見とその保全・継承・活用策								
応援団づくり	4/23 打合会① 5/21 打合会②	6/中下 講習会 6/23(府庁 マルシエ)	7/5 打合会③		打合会④ 9/29府庁 マルシエ	講習会(留学生)	10/19 (シンポジウム)	11/16~17全国 お茶まつり		打合会⑤	3/9府庁マルシエ 打合会⑥
			留学生、学生を巻き込む取組「宇治茶の集い」開催			茶カフェ①		茶カフェ②		茶カフェ③	
			シンポジウム企画								

宇治茶の価値って何？

何を日本や世界の人々に伝え、
人類共通の貴重な宝として将来に
わたって継承していけばよいか。



皆で一緒に考えて、行動を

戦略を策定

宇治茶を将来にわたって継承していくための課題は？

①100年後には茶畑がかなり消滅？

- 茶農家以外の人が就農するのが困難
- 生産者が減少

②本ず栽培、手摘み栽培がかなり消滅？

- 高級茶が売れない

③急須で飲むことが無形遺産に？

- お茶の淹れ方を知らない人が増加

世界文化遺産登録に向けた取組推進を通じて
何を残していくか？
(新たな戦略のキーワード)

人づくり

拠点づくり

保全のしくみづくり

宇治茶を未来につなぐ戦略（仮称）のイメージ

	課題	対策	役割				
			地元	NPO	団体	市町村	府
戦略1		事業①					
		事業②					
		事業③					
戦略2		事業①					
		事業②					
		事業③					
戦略3		事業①					
		事業②					
		事業③					

本日のプラットフォームの進め方

①宇治茶の価値って何？

- 何を日本や世界の人々に伝え、人類共通の貴重な宝として将来にわたって継承していけばよいか。意見を出し合い、その価値を情報共有する。

②その価値を継承していくには何が必要？

- 意見を出し合い、10年後の目指す姿に向けて当面、3年間の戦略項目を整理し共有する。

③次回議論する項目を確認

- 次回に向けてそれぞれが、戦略のアイデアを。

※月1回程度、プラットフォームを開催し、秋には戦略を策定